

## イギリス初等教育草創期におけるMathias Rothの 体育授業導入提案

A historical study on Mathias Roth's proposal of the compulsory teaching for physical education in English elementary education during the early 1870s.

榑 原 浩 晃

Hiroaki SAKAKIBARA

保健体育講座

(平成17年9月26日受理)

### Abstract

The purpose of this study is to clarify the historical background, its contents and the influences on the Mathias Roth's proposal of the compulsory teaching for physical education in English elementary education during the early 1870s. Mathias Roth(1818-1891) was one of English physician and advocator of the educational gymnastics who had been studied for Ling system for Swedish gymnastics. Roth convinced that Swedish gymnastics would prevent the physical deformities and weak. And he tried to cure and he spent a great deal of time and energy trying to persuade those responsible for elementary education to introduce Swedish gymnastics into the elementary schools curriculum. According to *A Plea for the Compulsory Teaching of the Elements of Physical Education in Our National Elementary Schools, or the Claims of Physical Education to rank with Reading, Writing, and Arithmetic*(1870), his suggestion was that elementary education should not be considered efficient unless physical education forms part of the regular and daily instruction. And Roth had learned not to use complex ideas but boosted his case with statistics on the physical condition of new recruits in army and navy and that of children in workhouses and ragged schools. Roth suggested that a through education should consist in the harmonious development of all physical, mental, and moral faculties. Physical education was therefore of the utmost consequence, and the only right mode of physical education was necessarily based on the full knowledge of the structure and functions of human organs, and on sanitary knowledge, which would be beneficial in preserving the balance of the physical forces of the growing children, and enabling it to grow up with a sound mind in a sound bodily frame. In 1875, Butler-Johnstone MP, *et al* referred to Roth's works on scientific physical education and gymnastics in House of Commons. The fact that Butler-Johnstone mentioned him by name, and that Butler-Johnstone recommended scientific physical education in Roth's statement, were related to the influences on Roth's proposal. They argued that several years had passed since the introduction of elementary education in nationwide and that time was ripe to argument the three R's with other subjects. Although the Committee of Council on Education could be still expected of drill or military drill for physical education, a significant event in the development of Swedish gymnastics had been engaged in the London School Board in early 1870s.

キーワード： 1870年代イギリス 初等教育 体育授業 必修

Key words: 1870s in England elementary education physical education  
compulsory teaching

## 1. はじめに

本研究は、1870年にMathias Roth(1818-1891)によって起草された初等教育への体育授業導入提案に関する体育史的研究である。周知のように、1870年代はイギリスにおいて1870年初等教育法が制定され、国民の教育への責任体制が徐々にではあるが整備されはじめた時代である。医学者でスウェーデン体操の医療的効果を熱心に訴えていたMathias Rothは初等教育において、読み、書き、算術のthree R'sと同等の内容と位置づけを体育に与えるべきであると政府に提案していた。この初等教育草創期にあたる1870年代にMathias Rothがなぜ具体的に政府に対して初等教育への体育導入を提案したのかについては十分な検討がなされていない。そればかりか、軍部の介入もあって、初等教育法制定当初はdrillの実施が体育授業の代替措置として講じられていたとの見方もある。

本稿では1870年代のRothの提案を史料として位置づけ、提案の意味することやその背景、及びその影響を考察してイギリス学校体育の歴史的展開過程の中に位置づける作業を試みようとする。したがって、Roth提案の背景をまず吟味し、提案の内容を順を追って跡づけることを通して、その論点や妥当性を考察しようとする。さらに、Rothの提案がいかなる影響を持っていたかを考察する。Rothの提案は1870年前後の下院での論議に影響を与えたとみられるが、その正確なところはこれまでの研究では未検討のままである。それらの論議を整理し、当時の体育授業導入の限界や可能性についても考察を加えようとする。

## 2. その社会、教育的背景

1870年代後半から第一次大戦に至る期間は、欧米列強や日本なども競って植民地獲得に乗り出し、その地域も世界全域に広がったという。<sup>1)</sup> イギリスは19世紀中葉に世界全域で通商上の覇権を確立すると共に、必要に応じて軍事力を行使し、領土の併合も行っていた。総理大臣Disraeliは、対外的に1875年にイギリス政府のためにスエズ運河株の相当部分を、財政困難から持ち株を手放そうとしていたエジプト大守イスマイルから買収することに成功した。その決定は閣内の強力な反対に抗して実現されたものであったが、これによって海路インドに至る拠点を手に入れることができたのであった。<sup>2)</sup> 1840年代から1870年代までに拡張された領土は、その後の世紀末の30年間にイギリスが有することになる領土にほぼ相当するもの

であった。<sup>3)</sup>

しかしながら、1870年代後半のイギリスにおいて、対外的な植民地獲得に関する世論に大きな転換がみられたことは確かである。すなわち、植民地の獲得は、本国の社会経済を維持するために不可欠であると主張されると同時に、他方では植民地化された地域にとっても文化の移入と定着の恩恵に浴することになるという考え方を生み出したのである。<sup>4)</sup>

こうした対外的な植民地獲得の動向を反映する1875年前後の時代は、一般に経済史上、大不況(Great Depression)のはじまりの時代であるともいわれている。<sup>5)</sup>

世界の工場として反映と進歩を誇ったイギリスは、1873年の世界恐慌から一転して慢性的な不況に陥り、途中一時的な回復があったものの、1896年に至るまで、不況ムードから脱却することができなかった。この時期に無敵の優位を誇ってきたイギリスの工業製品は、産業革命以来、初めて世界市場において深刻な競争相手とぶつかり始めたのである。すなわち、アメリカとドイツの進出であった。<sup>6)</sup>

この大不況の背後には、それまで世界の工場として世界経済をリードしてきたイギリスの独占的支配が崩れ、アメリカとドイツが世界市場に進出してきたことが大きな一要因として働いており、イギリスはその影響をまともに受けることになってしまったのである。<sup>7)</sup> 工業部門では、イギリスの鉄鋼業界が深刻な打撃を受け、イギリスの鉄鋼生産高は、アメリカ、ドイツの後を追って第3位へと転落した。<sup>8)</sup>

だが、社会、経済的にみて、特に重大な変化は農業部門において起こった。南北戦争後、アメリカでは、西部の開拓が急激に推し進められたが、そこで生産される低廉な小麦が、この時期に至って続々とイギリス市場に流入するようになったのである。<sup>9)</sup> しかし、政府は自国の農業を保護するためにアメリカ小麦に関税をかけることもしなかったから、イギリスの農業は衰退に向かうはかなかったのである。<sup>10)</sup>

世紀後半の30年間に、人口総数は約40パーセント上昇しているのに、農業労働者は125万人から100万人以下に低下した。同時に、そのことは、都市への人口の流入と大量の海外移住者を膨らませた。こうして、産業革命以降も、なお存続していた農村地帯の伝統的生活には急激な変容がみられ、そのことは若年層の農村から都市への離村現象によって一層強められたのである。<sup>11)</sup>

ヴィクトリア時代の繁栄が大きく崩れ始めた大不況期の都市において、慢性的不況は大量失業を生み、ストライキや失業者のデモの頻発は、社会不安をかきたて、失業と貧困は都市の社会問題として認識されるようになった。<sup>12)</sup>

工業化、都市化の進展が生み出した大都市におけるひずみの是正は、1875年に政府の政策次元の問題として本格的に着手されたのである。すなわち、公衆衛生問題、そして、その根源ともいえる住宅過密の問題に最初に手をつけ始めたのは、実は対外的な植民地獲得を進めようとしていた首相の Disraeli であった。<sup>13)</sup>

第2次 Disraeli 内閣の社会改良の立法、すなわち、1875年の公衆衛生法と職工住宅法がそれである。前者は、下水、排水街路の清掃、給水に対して責任を持つ衛生当局の全国的なシステムを樹立した。後者は、都市の議会にスラムの接收、撤去の権限を認めるものであった。<sup>14)</sup>

近年のイギリス史家の見解によれば、イギリスの対外的な植民地獲得は、国内の社会問題の解決と同時に画策されていたという。保守党、次いで自由党内閣による対外的な植民地獲得の動向の背後には、数次の選挙法改正による労働者階級の政治への登場という事態があり、これら新有権者を引きつけるための手段として、国内の社会問題の解決がしきりに説かれ、対外的な植民地獲得の画策を正当化せしめたというのである。<sup>15)</sup>

このような時代、つまり、1870年代の後半にさしかかろうとしていた時代の初等教育は、どのような状況を示していたのであろうか。労働者階級の教育要求の高まりと初等教育への国家関与に象徴される1870年初等教育法の制定後、初等学校においては、漸次、就学率も上昇し、実質的な義務教育へと地歩を固めつつあった。<sup>16)</sup>

同法によって、学校不足の問題が解消され、1875年前後には、学校設置数も増大していた。このことがそれに伴う就学児童数を増大せしめ、「児童が学ぶ three R's の学習水準 (Standard) も全国的に少しずつの上昇をもたらした」<sup>17)</sup>ともみなされている。

### 3. Mathias Rothによる体育授業導入提案

Mathias Rothの体育導入提案は、(1) 初等教育の現状と体育の必要性、(2) 国民の身体の現状、(3) 教育思想家の教育論にみる体育の重要性、(4) ゲーム活動の過小評価と科学的な体育の内容、(5) 体操の利点というように、大きく5つの部分に分けられる。Rothの体育授業導入

提案のねらいは、一言で衛生的な知識の要素を含んだ合理的な体育(Rational Physical Education)に関する重要な問題に人々の関心を促すことであった。1870年に公開された提案は、「枢密院教育委員会副委員長 Foster に捧げる」<sup>18)</sup> という献辞が載せられているが、政府の教育当局に、もし体育が正規の日常的な教育の中の一部をなさなければ、学校で教育効果が上がることなど考えられないと強く主張している。そして、視学官が、こうした教育的分野の十分な進展を報告していても、政府の支援はどの学校にも全くなされていないといい、現状の推移では決して満足しない姿勢を示している。<sup>19)</sup>

#### (1) 初等教育の現状と体育の必要性

Rothの提案は、教育問題の現状を以下のように述べることから始まっている。

「教育問題は、イギリスのすべての子どもが教育を受けるべきであるということが認められて最終的にかなり前進した。そして、そのことは読み、書き、算術からなる最低限の知的な訓練をすべきであるということの意味していた。」<sup>20)</sup>

Rothは、引き続き1869年5月19日付の Foster の講演を引用している。

「もし教育が貧しい者に対して全国民に、義務的で、無償であるとしたら、もしイギリスが他の国に遅れをとらないようにするとしたら、そして、その国の繁栄を維持したいと望むならば、それぞれ個人を強壮にするよう促し、彼らの教養を高めることによってのみ、それは成し得るのである。彼らは、多くの能力を眠ったままの状態にしておいてよいわけがない。そして、それらの能力は駆り出されなければならないし、それを高めるような機会が与えられなければならない。なぜなら無知であることは虚弱で、虚弱は病氣、貧困、あるいは犯罪という結果を生むからである。」<sup>20)</sup>

そして、体育がこれまで問題にされてこなかったことを率直に以下のように述べている。

「著名で誠実な教育の唱道者のスピーチからの引用数が増しているのだけれども、私がこれまで引き合いに出したこれらのものは、教育の重要な分野である体育や衛生の知識が、多くの人々によって語られたことがほとんどないということを証明

するのに十分である。彼らはイギリスが他国との遅れをとらず、進んだ海運国家であり、工業国家であることを願っており、労働者階級の人々が完全に教育を受けることを願っている人々なのであった。これらの熱烈な教育の唱道者たちがいずれも、彼らの計画構想の中で、知的、道徳的な教育と同等の位置づけがなされているのではなく体育が省略されていても、いかに多大な教育的効果を得ようと期待しているのであろうか？3つの教育の分野を結びつけることによってのみ、全うな教育というものの基礎となるのであり、それは我々の身体的精神的道徳的能力の適切な発達を目標とするものなのである。」<sup>21)</sup>

Rothは先にLord Granville宛の私信の中で、国民教育の一分野として、科学的な体育の導入を推奨していたともいう。そして、それ以来、人々を前にして講演を行い、論文を執筆し、多くの指導的立場にある人々への個人的なインタビューを通して、公衆衛生や貧困の割合の減少、人々の身体的能力の増進、国の軍事力増強に関する事柄と共に、こうした質問を投げかけることを試みていたという。しかし、これまでその進展が多少みられていたが、いまだそれが改善されていない状況にあった。そこで、議会の会期にあたって、国民教育の進展に期待を呼び掛け、衛生的な原則を要素に含んだ体育に関する必要性をかなえるべく期待を寄せており、今回の提案に踏み切ったのであった。<sup>22)</sup>

Rothが考えている体育について、以下のような説明箇所が存在する。それは、体育の必要性の論拠として読みとれる。

「我々の現在の教育システムは、身体について気づくようなことはほとんど何もない。我々は小さくても大きくても男児も女児も身体を持っているが、身体的能力について、健康的で活力に満ちた調和的な発達にとって多くは、ほとんど初等教育でも技術教育でも美術教育でも取り扱われていない。身体は精神と同様に多くの教育的配慮を必要とし、身体的能力の調和的な発達は、科学的あるいは組織的な教育実践なくしては獲得不可能であるという根本的原則が一般に考えられていない。精神と身体は同時に調和的に訓練されなければならないという絶対的に不可欠なことが考慮されていない。衛生的な知識や体育の要素が国民の教育の中で絶対に必要な部分であり必修の分野を成して

いないことが嘆かれる。生徒の健康や身体の発達に関して、非常に重要なこの分野の教育が、教師の任務の中に含まれていない。」<sup>23)</sup>

## (2) 国民の身体の実状

Rothは、国民の身体の実状を把握するために以下のような例証を用意している。そのような事実によって、体育が重要であることが認識されるという。

「①1866年に診察を受けた志願兵20,410人のうち、7,761人つまり1,000人中380人が拒否された。1,000人のうち、697人がイングランドあるいはウェールズ出身、78人がスコットランド出身、219人がアイルランド、6人が植民地と外国であった。拒否された志願兵の不適合であると判断された理由は以下である。

1,000人中43人が眼及び眼瞼の病氣(882人)、35人が静脈瘤(721人)、35人が胸郭の狭隘、肥大、あるいは湾曲(723人)、27人が静脈節瘤(542人)、26人が筋線維の薄弱(525人)、25人が心臓病(513人)、20人が虚弱(414人)、そして疾患のあるものが1,000人あたり合計で211名(括弧内が総数)であった。

上記を職種別に見ると、人口1,000人あたり、609人が農夫、非熟練工、従業員、144人が手工業の職人、156人が機械工、63人が店員、事務員、5人が技術専門家、12人が少年、計989人、その他不明11名であった。

10,000人を視察した人々の身長をみると、8,989人が5 feet 9 inches以下、532人が5 feet 10 inches以下、375人が5 feet 10 inchesを超える。そして、104人が6 feet以上である。10,000人の体重をみると、99人が100ポンド以下、253人が110ポンド以下、2,134人が120ポンド以下、3,448人が130ポンド以下、2,411人が140ポンド以下、1,211人が150ポンド以下、444人が150ポンド以上であった。(人数を合計すると10,000人になる。)

年次にわたり兵役拒否者数をみると、検査した志願兵1,000人のうち、1864年は448人が拒否され、1865年は426人、1866年は380人、1867年は378人であった。つまり平均すると、1864年から67年までに1,000人中、408人が兵役を拒否されていた。

次に文盲についてであるが、5分の1の人々が字を読んだり書いたりすることができない。

②人々の身体の状態が低次元であることを示す

他の事実もあるが、それは、海軍の兵役に応募した5,567人の少年のうち、4,410人が拒否されている。823人が胸郭の水準以下であった。最低限度の数値は、14.5歳と15歳が27.5 inchesであり、15歳と16歳が29.5 inchesであった。674人の身長が標準以下であって、最低限度の数値は、14.5歳と15歳が4 feet 8.5 inchesであり、15歳と16歳が4 feet 10.5 inchesであった。

③鉄道会社への雇用を志願した530人の内、201人が拒否された。拒否の主な理由は、92もの事例があり、胸郭が小さく奇形であった。

④首都圏郊外のワークハウスの15歳以下の子どもたち358人についてみると、84人、つまり23.4%が慢性疾患にかかっていた。」<sup>24)</sup>

大規模な工場で働くということに適している若い女性たちへの間に、身体的欠陥の罹患が増えていることは、このようにリバプールのネルソン・ストリートの施設経営者によって述べられているという。

「ある月曜日の朝、我々のカウンターに立つことが、ほとんどおっくうなのである。そして、看護に従事する中で、人々の中に幼い少女の多くが身体に欠陥があるということがわかるであろう。私は、わずかな時間で彼らを見分けることができる。一方の肩幅がもう一方よりも低くなっている。首が片方に曲がっている。歩幅を引きずって歩いている。少女の貧民学校に私が訪問している間、私は脊柱や四肢の形成不全、胸郭の苦痛、甲状腺の病気に50%以上の少女が感染していることが判明した。こうした苦痛の訴えは、中産階級や上流階級の女子校でも非常にかなりの数に上っていることがわかる。そこでは、絶えず詰め込み主義の教育が続いており、身体的な能力の発達に無関心なのである。少年たちは多くの学校でのゲーム活動の利点を得ているけれども、猫背、胸郭の不形成、頭痛、虚弱、背骨の欠陥、あるいは、その他慢性的な病気が一般の人々に認められる以上に、一層頻繁に出ているのである。」<sup>25)</sup>

### (3) 教育思想家の教育論にみる体育の重要性

Rothは、体育を教育全体に理論的に位置づけようと説明を続けている。それは、全うな教育という意味であり、先哲による主張を引用して体育の必要性を訴えたものであった。

「徹底的な教育というものは、身体的、精神的、道徳的能力の調和的発達によって成り立っている。それゆえ、体育は最も影響の大きいものであり、体育の唯一の正しい流儀というものは、必然的に我々の器官の構造と機能、あるいは衛生的な原則に基づいたものである。そして、それは、発育盛りの子どもたちの身体的能力のバランス維持や健全な身体の構造に健全な精神を備えてその成長を可能にするのに最も効果的なものでなければならない。」<sup>26)</sup>

Rothによれば、教育に関する初期の文献で体育について取り扱っているものに、Sir Nicholas Baconの1510年の文献があり、Baconは、身体的能力に関して「男性の身体の良さというものは、健康、美、強さ、快楽の4つの種類のものである」<sup>27)</sup>という。John Miltonは、「平和であれ、戦争であれ、私的であれ、公的であれ、正当で、うまく、寛大にあらゆる業務を遂行するために男性を適合させること、」<sup>28)</sup>を教育と呼んでいるという。Rothは、このように教育における身体的能力の重要性に関して思想家の言及箇所にも依拠している。Miltonは、運動することに関して次のようにいう。

「青少年が昼食を食べておよそ1時間半が経過するとすぐに、彼らには運動することとその後、適宜休憩することが認められるべきなのである。私が第一に勧める運動は、端や点を安全にねらい打ちし保護するために武器を正確に使用することである。このことは、彼らを健康的であることやすばやさ、強さを維持することであろうし、呼吸を良くするのである。また、彼らを大きく背を高く成長させ、真の不屈の精神や忍耐について彼らに対して時を得た講演や訓示で鍛え上げ、彼らを勇敢にして恐れを知らない勇気を吹き込むのに、最も可能性のある手段なのである。そして、生来の英雄的な勇気へと変化していくことであろうし、悪いことをして卑怯なことをひどく嫌うようにするのである。」<sup>29)</sup>

一方、ロックの教育論から著名なJuvenalisの格言を以下のように引用している。

「健全な身体に健全な精神ということは、この世界における幸福な状態ということを手短かに表現していることである。彼は、これら2つのことを備えている人は、その上に望むものはほとんどない。

この両者のいずれかを欠いている者は、他のいかなるものを得ても、その埋め合わせはつかない。人間の幸、不幸もたいていは各自の作り出したことである。精神が正しく導かれぬ者は、けっして正道を歩むのではなく、身体が虚弱で衰えている者は、けっして正道を前進することはできない。」<sup>30)</sup>

#### (4) ゲーム活動の過小評価と科学的体育の内容

Rothが、体育の実際の内容に目を向けて説明するとき、彼がパブリック・スクールのゲーム活動を評価していないことに気づくであろう。Rothの立場の背後にあるのは、体操による身体の教育にほかならない。

「イギリスでは、科学的で組織的な体育を行うことがなく、我々の多くの人々には一般的に活力がみられ、フィールド・スポーツ、学校でのゲーム、そして、娯楽に熱中しているのであろうということである。

①これまでに引用した若干の事実は、当然のことであると思われるので、人々の活力が実際以上に一層虚構的なことであるということがわかる。

②フィールド・スポーツは、かなり少数の人々によって実施されている。その他のゲームは、我々の体格のいくつかの部分のみを発達させる。普通、それらは既にけっこう強くなっている。一方、もともと弱い部分で、より注意を払って発達させることが必要な箇所が一般的に疎かにされ、パブリック・スクールでは少年たちが最も興味あるゲームや娯楽を選択し、高度な技能やその熟達を獲得しようとしている。そして、それを娯楽のようなものとしてのみ、考えている。それらの運動の有益な効果は否定されるべきものではない。けれども、身体のあらゆる部分を同様に調和的に発達させるためには十分なものではない。このことは、多くのクリケット・プレーヤーやボートの漕ぎ手の多くが前かがみの姿勢であったり、騎手の脚ががに股になっていたり、フットボール・プレーヤーの胸部が未発達であったりしていることなどで、明らかになっている。

③Athletic Sportsの過剰な弊害や悪影響、体格へのそれらの悪影響などは、近年論文の中で十分議論されていることである。古代の身体文化が衰退していく中で、アスリートが軽蔑してみなされ、暴力をふるい（それが）広がり始めて

いる。

④特に体育が必要とされるような大きな町では、フィールド・スポーツや他のスポーツは、もちろん全く疎かにされている。そして、ピッチアンドトスのゲーム、ビー玉遊び、そして、同様のゲームに取ってかえられている。それらは意思の命令に応じて身体を可能にするような身体的能力の発達ということをかえぬことはできない。

⑤都会の少女たちは、少年たちの不十分なゲーム活動でさえも見られず、なおざりにされているのである。縄跳びの縄など、彼らの単なる退屈のしが極端に用いられているのである。特に、我々が職工や労働者らの将来の妻や母親について考えるときに、彼らの身体的発達は確かに重要なものである。」<sup>31)</sup>

#### (5) 体操の利点

Rothはゲーム活動とは異なり体操には多くの利点があることを述べている。そして、体操によって得られる利点は、「①人々の中に身体的な力を増加させること」<sup>32)</sup>や「②実施する生産作業の価値を増加させること。」<sup>33)</sup>であり、「脊柱の湾曲、その他の欠陥と同様に、瘰癧の肺病、その他の病気の減少」や「死亡率、特に子どもや青少年の死亡率の減少」と連動すると説いている。<sup>34)</sup>

「少年時代や青年期に、身体的によく鍛えられた職工や労働者は、大人になり年老いたとしても身体運動を継続している。そして、彼らが1日に8時間も10時間も必然的にむりやりそのままの状態にさせられる。様々な身体部位に悪影響を及ぼしていてもそれらが解消されるのである。彼らは、体操の運動を楽しんでいるうちに彼らの健康を維持し、彼らの身体の強さを維持している。ほとんどパブに行ったりしないし、一層用心深い習慣を普及させることを通して、こうして銀行に預けている預金が増えている。商人、店員、事務員、その他様々な職業に属している男性や学生たちは、絶えず机に向かい、多くは頭を使う仕事についている。多くの合理的な体操によって身体的能力を維持するために、彼らの中ではお互い仲間を作ったり、職工の人々と連合したりするのである。それはけっして理性的でない運動競技的なゲーム活動やスポーツに変えられることはないものである。

多くの精神的、身体的な病気は、こうして予防することができよう。絶えず頭をつかって仕事している悪影響が解消されるのである。身体と精神

の強さは、長時間にわたって維持されているのである。

次に③国の軍事力を増強すること及び④軍事訓練費用をかなり縮減することについてである。すべての男性は、幼少年期から身体的に訓練を受けているが、海軍や陸軍への志願を拒否される男性が極少数であるが存在している。

望ましい身体訓練を享受していきっている人々は、有能な兵士になるためにそれほど長期間を要しない。そして、結果として、兵士を訓練するのに節約された時間の割合によって陸軍の軍事費は減少するであろう。大部分の人々は、市民兵の組織や志願兵の組織に加入する。こうして、現在の陸軍志願兵制度の悪影響を減らすことができる。

パプを通して心を乱し、墮落し、だまされるような「厄介者」や下士官を賄賂で誘惑するようなことはしない。男性たちは求めに応じて行動し、彼らが他の職種に雇用されるのと同じように、軍隊に入隊しようとしている。全住民への合理的な体育の効果は、プロシヤオーストリアとの近年の戦争でかなり証明されている。著名なロシアの将軍は、“我々は、オーストリアの人々を征服したのではない。我々、かれらより早く進行していたのである”と述べている。

⑤ある地区での一般住民の大多数の割合に応じた貧困率、犯罪発生率、刑事機構の費用の減少についてはである。というのは、不健康、病気は貧困、精神的苦痛、犯罪を引き起こすからである。ボランティアの火消し隊の設立は火災の場合に精力的にすばやく支援する用意をしているが、身体文化に関する協会、つまり、大陸の体操協会と呼ばれているようなものとしてそれらとかなり結びついているのである。

⑥健康で、身体が強く、美しい母親が増加すること。彼らは彼らの子どもたちをいかに世話し、管理するのか、そして、換気、清潔さ、澄んだ水、食物、衣服などに関する限り、最も重要な衛生的な原則の全てに対して、家庭の中で健康の最も望ましい管理者をなし、いずれもいかに彼らの幼年時代に関心を払うのかということに気づくであろう。このように、あらゆる階級で平均的な生活が広がりを見せ、喜びや幸福が一層一般的になるであろう。」<sup>30)</sup>

こうした説明の後に、実際に体育を導入するための提言としてそれらを5箇条にまとめている。

「①教育見習生、学校の教師、女教師らは、体育

や保健の知識の要素について教員養成学校で訓練を受けなければならない。その中には、彼らが理論的な試験のみで合格するのではなく、こうした部門を実際に教えるのに彼らが熟達していることが判然としなければならない。

②既に実際に雇用されている教師たちは、限られた期間（たとえば、休日中などに）の中で少なくとも初歩的な知識を子どもたちに教えることができるように、補習コースを受講することができるような機会を持たなければならない。

③何時間かは、学校に配属されていない体育教師は、限られた時間でさえ学校を離れることが不可能な教師たちに理論的・実地的な指導を行うために、数多くの学校地区を巡回しなければならない。

④多くの学校では、体育や最低限の健康の知識は、読み、書き、算術とまさに同等なものとして教師が関心を持ち、学習水準を設定しなければならない。

⑤健康の原則や体育についての初歩的な書籍が活用されるために、Council of Educationによって認可されなければならない。これらのすべての提言は、大陸の多くの国々で実際に実施されている。」<sup>30)</sup>

Roth は健康の知識を含んだ体育をRational Physical Educationと表現しているが、それは以下のように2つの基本的な部分から成り立っているという。

「私が推奨する初歩的な体育は、2つの中心的な部分から構成されている。あいにく、学校で適宜換気をすることが行われておらず、背もたれのない長いすに座っていたり、適切でない食物や飲み物であったり、窮屈な衣服を着ていることなどがあまりに頻繁になされていることにみられるように、第1番目の部分というのは、身体のありのままの発達を妨げるものであってはならない。このために、教師は健康を維持するための初歩的实际的な知識をある程度持つべきである。そして、それは些細なことでも注意深く関心をもつかどうかにかかっており、共通の初歩的な教育の一部として教えられなければならない。

第2番目の部分というのは、児童が学校に入学する年齢から活用される徒手運動の科学的なシステムによって、身体のあらゆる部分を実際に発達させるということから成っている。これらの運動

は、身体と精神を調和的に発達させるというねらいを持ち、身体と精神の調和的発達ではなく、身体の部分的な発達、つまりその単一な部分であることを認めず、人間の身体と精神は区分できない統一体であるという原則を形成している。」<sup>37)</sup>

Rothは体操の内容を「徒手運動の利点」と称して紹介している。free exercisesの意味は気ままな体操ではなく、何も器具を用いずに、あるいは手で何も持たずに行う体操という意味を含んでいる。

- 「①それらは、いかなる器具の助けも借りずに実施されている。ということで、その費用も抑えられている。
- ②徒手運動は、音楽の旋律に合わせて同時に単純に実施できるものである。
- ③個々の動きは、非常に単純なものであり、簡単に実施できると同時に簡単に理解できる。
- ④それらは大多数の生徒たちによって、一斉に実施できる。このことで多くの時間が節約できる。
- ⑤徒手運動は室内でも戸外でもどのような場所でもうまく実施できる。どんな教室でもこれらの運動は実施できる。
- ⑥徒手運動のすべての動きは、正確に観察され実施されるので、同時に多くの生徒がおり、命令を受ける感覚が促され注意が行き届くことが重要な意味をもつ。ある程度注意して正確に彼ら自身で実施できるように慣れさせなくてはならない。
- ⑦徒手運動は、身体の動きの中でこちよい感覚をつくり出す。
- ⑧それらは、機械的に組み立てられた運動や身体の良い姿勢、そして、普段の生活の中での適切な容姿やふるまいを一層促進する。
- ⑨より進んだ徒手運動の中で、その中では補助器具が必要であり、その補助器具は活気を与え、運動を実施している生徒の前腕、上腕、脚を相互に同時に働かせることによって目的を果たすのである。器具として最も望ましい援助器具を代用することは以下のような利点を持っている。
- ⑩それらは、幅広く体力を増強させるためにも特定の部分を増強させるためにも、特別な運動を応用したものである。
- ⑪それらは、明確で正確な運動感覚を発達させ、改善するのである。

- ⑫それらは、さらに平衡感覚の発達にも影響を与える。
- ⑬我々自身の四肢の運動の望ましい知覚を与えることによって、他人の四肢の運動やそれらによって影響を受ける力に関して、同様に望ましいように他に影響を与えるものである。
- ⑭腕の様々な多様な形態の運動が並置され、すばやくてきぱきとした堅実な方法で実施されることによって、生徒たちは運動を洗練して準備し、他人に対してもすばやくてきぱきと支援をするように、習慣化されるのである。
- ⑮これらの運動は、我々に、いかに我々の身体の強さをもたらすものか、単一あるいは同様の目的で他者と協力しながら、我々の運動をいかに制御することを教えるのである。
- ⑯身体と精神の調和的発達、徒手運動によってのみ獲得されるのであるかもしれない。そして、それは高価な器具を有するかどうかの可能性に左右される体操にするものではないのである。
- ⑰これらの運動は、視覚や聴覚など身体に障害のある人の体育にとっても非常に有益である。後者は、その目的で準備されるモデルの活用によって、こうした単純な運動で非常に簡単に指導されている。」<sup>38)</sup>

さらに、徒手運動の利点について説明を続けている。

- 「①これらの運動のさらに進んだ効果を得るには、1時間半で十分であろう。1時間目の終わりと2時間目のはじまりの10分から15分の時間が簡単にそれにあてられるであろう。
- ②それらは他の学校での活動の邪魔にならない。しかし、逆に子どもたちは授業で一層集中しているようになっている。
- ③それらは教師にも生徒にも効果的で必要なものである。
- ④知識の教育の目的で身体の様々な部分と、いかにそれらが活用されているかを教えることは、理解力のある教師によって授業のねらいとして既に活用されているか、あるいは活用が可能なものである。様々な姿勢や運動は、様々な幾何学上の形態と同じように、水平、垂直、円、楕円の線などを考えることに役立つのである。



- ⑤形態、美しさ、そして釣り合いのセンスは一層発展させられ、結果として技能の鑑賞力、技能を洗練させることなどを促していくのである。
- ⑥これらの運動を用いると志願兵が一層急速に他の多くの訓練以上に、鍛えられた兵士に変化させることができる。
- ⑦これらの運動は、軍隊体操、美的体操の基礎を形成している。そして、それはまた治療目的でも活用されている。
- ⑧一人ひとりの個人的運動として、それらはそれぞれの単一の身体各部に関するものであり、手軽で簡単に可動させるものである。そして、できる限り体幹と四肢を使って思い通りの意思で実施可能なものである。
- ⑨大人数で一斉に実施する徒手運動は、一人ひとり個人に以下のことを教えている。それは、より広範囲にわたる身体の命令に従わなければならないし、各自が全体の中の必要な部分なのであり、ある1人の失敗が運動全体を混乱させるのであり、望まれることを身につけ、運動を成就するために、個人と同じように大人数での組織的な協力が不可欠なのである。このように生徒はさまざまな運動やそれらを実行するための異なるモデルを有し、より大きなコミュニティーのメンバーとしてその人が必要なこと、つまり1人で独立して行動し活動すること、あるいは協力して大人数の人々に従うことを教わるのである。
- ⑩徒手運動は同様に、身体のすべての部分を健康的な行動へと仕向けるものである。血液循環は、支障なく円滑である。すべての機能は、適切な活動性、規則性をもって働いている。したがって、標準的な健康が維持されている。」<sup>39)</sup>

そして、そのような体操は任意ではなく必修にすべきであるといい、提案を結んでいるのである。

#### 4. 下院での論議とRothの提案の影響

初等学校数の増加や出席率 (attendance) の上昇などにみられるように、軌道に乗りつつあった初等教育の現状に鑑みて、体育へ着目すべきであるという論議も一時的ではあったが、下院で話題に上っていた。1875年7月1日、下院において、初等学校への体育授業導入に関して、下院での最初の建議に立ったButler-Johnstoneの意見表明 (Observation) の冒頭にもそのことが端的に語

られている。<sup>40)</sup>

Butler-Johnstoneは、「体育の問題にまず下院で関心をもってもらいたい」<sup>41)</sup>と訴え、「初等学校で何らかの体育が行われるべき時期に来ている」<sup>42)</sup>と意見を表明する。

そして、1870年初等教育法制定直後を回顧して「1870年当時は、国民の教育が深刻な問題となり、初めて着手した時点では、社会的、宗教的、経済的な多くの問題が山積しており、まず、three R'sを初等学校で教えることだけに関心が向けられていた」<sup>43)</sup>という。

しかし、「現在、これらの初期の問題は幸運にも切り抜けられ、普遍的に初等教育は、ある程度整備されてきている」<sup>44)</sup>ので「教育の中で必要なものを省略していないかどうかを我々は確かめる時期に来ている」<sup>45)</sup>とも述べるのである。そして、体育授業の導入を以下のように主張するのである。すなわち、「もし、教育の中で大切な何かが無くていて、今一度考えてもらいたい問題は、体育が少なくとも知的教科と同じように、より多くの点で必要なものであるということ公平な目で見て、主張していてもよいと思う」<sup>46)</sup>と。

Butler-Johnstoneによる下院での意見表明には、まず、1870年初等教育法制定後、5年の経過を待って、体育授業の導入を訴えたものであった。

史実との関連で、Butler-Johnstoneの発言にみる初等教育の状況を考察すれば、1875年の時点では学校設置数では、5年の経過ではるかに進捗していたことは事実である。が、学齢期のすべての児童が就学していたわけではない。1875年の政府当局の査定によれば、就学すべき児童のおよそ70%の児童が学校に通っていたにすぎないし、その就学に数えていたのは、1年間250日以上を出席していた児童であったとの説明がある。<sup>47)</sup> 学校に通いながら、1日のうち何時間かは工場へも仕事に通う児童が当然含まれているわけであるし、1875年の時点で就学は強制されていたわけでもなかったのである。なお、初等教育は無償でもなかったから、初等教育は整備の途上であったとみてよい。<sup>48)</sup> したがって、われわれは、Butler-Johnstoneの「ある程度整ってきた」という言葉を過小評価しなければならないだろう。しかし、彼が初等教育の多くの問題の間隙をぬって、体育授業の導入を主張するには彼なりに理由があったはずである。

Butler-Johnstoneは、「知的教科と並んで、体育が多くの点で必要なものである」<sup>49)</sup>と述べているが、Butler-Johnstoneのいう「多くの点」<sup>50)</sup>とは何

を意味しているのであろうか。Butler-Johnstoneが、意見表明の動機として、取り上げるのは、児童と共に都市に住む人々の健康や体格の現状に警鐘を鳴らした点にあった。

われわれは、体育授業導入の背景となる人々の健康な体格の現状を、Butler-Johnstoneの発言から知ることができるのである。それらは、「1,000人の補充兵員のうち、4年間で平均すると、408人が身体の欠陥を理由として、兵役につくことを拒否されている」<sup>51)</sup>という事実や、「海軍に志願した5,500人も少年のうち、半分以上の者が同様の理由で兵役につくことを拒否されている」<sup>52)</sup>という事実の列挙にはじまっている。このように、兵役につくことを希望する者の体格の現状が好ましくないことが、まず問題視されていた。対外的な植民地獲得が画策される背後に、軍事力が不可欠であることは疑いない。

しかし、われわれが、この時代のイギリスの対外的な植民地獲得の施策に伴う軍事的要請で、体育授業の導入が主張されたと考えるのは、いささか一面的でしかない。

当時の工業化の進んだ都市においては、自国の産業の振興こそ、イギリスが他の諸国と植民地獲得を競争し合う経済的基礎であったわけであるから、特に産業の振興という点をみのがすことはできないであろう。産業に従事する人々の体格や健康の零落という現状も体育授業導入の背景であったのである。すなわち、Butler-Johnstoneが、兵役関連の事実が続いて以下のように述べていることが裏づけとなる。「鉄道作業員に応募した530人の男性のうち、290人までが同様の理由で拒否されており、そのうち、92人が胸幅が不十分であると理由で拒否されている」<sup>53)</sup>と。

なお、若年層の健康や体格の現状は、「首都圏郊外のワークハウスを訪れた医者たちによって、15歳以上の子供の23%は心肺系の疾病にかかっていることが明らかにされているし」<sup>54)</sup>、「貧民の学校を訪ねてみると、50%以上の児童が脊柱の形成不全や肺の苦痛を訴え、甲状腺腫の病気にかかっている」<sup>55)</sup>というのである。そして、Butler-Johnstoneは、雇用主の立場からも初等学校へ通う児童の健康や体格の現状を以下のように訴えているほどである。

すなわち、「リバプールのネルソン・ストリートの手工業者は、土曜日の夜に仕事場に働きにくる小さな児童たちの脊柱が湾曲しており首が片方にまたっているのを見ると、哀れな様子を訴えている」<sup>56)</sup>と。

このように、Butler-Johnstoneが体育授業の導入を主張する理由の一端には、初等教育の進捗状況と共に、当時の都市環境下の生活から導かれる人々の健康や体格の問題であった。下院での趣旨説明にRothの先の提案での説明資料が援用されていることは明らかであろう。Butler-Johnstoneの意見表明からは、国会で人々の健康や体格の現状を他の議員や政府当局に理解させようとする意向がまず冒頭の主張からくみとれるのである。同時に、それはRothの体育授業導入提案の内容をわれわれに想起させるのである。

Butler-Johnstoneは、人々の健康や体格の現状を改善する方策として、「政府によって着手されている『公衆衛生法案』『河川汚染法案』『食物廃棄法案』を望ましいものである」<sup>57)</sup>としながら、まさに初等学校への体育授業の導入に求めようとするのである。「我々が、これらの好ましくない状態を改善するために、何らかのことに取り組むことは、我々の義務である」<sup>58)</sup>とさえ言っているほどである。

軍当局、医師、あるいは雇用主から、健康や体格の現状の指摘があったことは、この国会発言から考えられる。しかし、Butler-Johnstoneが問題解決を体育授業の導入に求めようとしたのは、専門家の論拠に基づいているのである。

したがって、われわれは、Butler-Johnstoneの意見表明の背後にある専門家の主張を検討し、意見表明の意味を考えることが重要となる。

1875年のButler-Johnstoneによる国会での意見表明は、政府当局に対する体育授業導入のはじめの提言でもあった。この意見表明の背後には、専門家の一連の主張があったことを読みとらねばならないのである。

すなわち、Butler-Johnstoneは、当時の専門家の1人であったRothの活動や古くはスウェーデン体操の祖リングの業績にも言及しているが、<sup>59)</sup>1875年を前後して一時、専門家や教育者によって体育授業の重要性が繰り返し主張されるようになる。<sup>60)</sup>

これらの主張は、既に述べたように、1870年初等教育法制定後、初等教育が軌道に乗りかけた動向とこの時代のイギリスが対外的に植民地獲得を一層画策しつつも、国内における社会問題の解決に向けて、公衆衛生の行政機構整備やスラム街の撤収等に着手した事実を背景としたものであった。それは、より具体的には、対外的な植民地獲得とかかわる兵役や産業従事者の身体的零落を背景としていたのである。<sup>61)</sup>

Rothは、国内の学会でも体育授業の導入を訴え、体育に関する著作もいくつか出版し、1870年代に勢力的に体育授業導入を主張した1人であった。<sup>62)</sup> 彼は、初等学校への体育授業の導入を主張するにあたって、人々 (people) が体育に理解を示していない点を指摘する。<sup>63)</sup> そして、この時代に新たに注目すべき体育を科学的体育 (scientific physical education) あるいは合理的体育 (rational physical education) と表現している。<sup>64)</sup>

Rothによれば、「科学的とは、合理的という言葉は、人間の身体の構造 (structure) や機能 (function) に関する知識 (knowledge)」<sup>65)</sup>、あるいは「我々の健康を維持する知識」<sup>66)</sup>、さらに「人間の身体のすべての部分を調和的に発達させるために必要な初歩的な運動の理論と実践」<sup>67)</sup> 等、これらを念頭に置いた体育のことを示している、というのである。このように考えられている体育は、同時代の彼のいくつかの著作の中でも同様に看取される。<sup>68)</sup>

「初等学校へ体育を導入せよ」というRothの主張は、具体的にこの体育をthree R'sと同じように、すべての初等学校で必修教科 (compulsory subject) とせよ、<sup>69)</sup> というものであった。より具体的には、three R'sと同じように補助金対象の教科 (grant-earned subject) として、体育がとり上げられるべきであるともいう。<sup>70)</sup> したがって、われわれは、Rothの主張するこのような体育を体育授業と考えるとよいようである。

しかし、1875年の時点では、イギリスのどこの初等学校においても、体育授業は導入されていないかたに相違ない。

Rothは、婦人衛生協会 (Ladies Sanitary Association) 主催の無料講習会などで、初等学校へ体育授業を導入する必要があることを訴えていたにすぎないのである。<sup>71)</sup>

このような体操の専門家Rothの主張にほぼ依拠してButler-Johnstoneは1875年の国会での意見表明に、体育の意義を繰り返して述べているが、<sup>72)</sup> Butler-Johnstoneが体育授業導入を訴える理由の一端は、以下の言葉からも明らかである。

すなわち、「身体的な活力 (physical power) が増進されることは、生産活動 (productive work) の価値を増加させ、身体的零落 (depravity) や病気の減少は、貧困の割合をも減少させる」<sup>73)</sup> という。なお、「不健康 (ill-health) や病気は、しばしば、苦痛、貧困、犯罪を引き起こすから、病気や身体的零落がくい止められれば、社会の幸福や幸運は増大していく」<sup>74)</sup> というくだりである。

こうして、体育授業導入に着目する理由を述べているのであるが、その際、「体育 (physical education) とはなんであろうか」<sup>75)</sup> とただしていることは、当時にして、画期的な主張であったといわねばならない。

Butler-Johnstoneに言わせれば、「体育と称して、疑いもなく、人々の頭の中には、体操 (gymnastics)、軍事教練 (military drill)、運動競技 (athletics)、キャリセニックス (calisthenics) という言葉が混在していて区別されていない」<sup>76)</sup> と述べ、当時、初等学校で行われている軍事教練に対して、批判の目を向けているからである。

「ある人が、男児の学校へ体育を導入するという話を語るとき、体育の導入が具体化された典型的な例として、その人の頭の中には、軍事教練担当の下士官が頭の中に浮かんでくる。現在、閣下の中で、軍事教練担当の下士官について私以上に大きな関心を持っている方はいないであろう。

しかし、私がとり上げている体育とは全く異なった別の問題である。彼らは体育を格下げし、すべての男児が兵役に就くことをねらいにしており、まさしく、体育の目的をくつつがえているのである。」<sup>77)</sup>

Butler-Johnstoneは、このように、初等学校で実施されている軍事教練を批判するのである。まさしく、Butler-Johnstoneが考える体育は、Rothの主張する体育に依拠し、「明確に何らかの健全さ (some sound) という性格を持つ体育」<sup>78)</sup> を意味し、「科学的に考案され」<sup>79)</sup>、「健全な生理・解剖学的原則にもとづいたものである」<sup>80)</sup> と述べるのである。

ことに、1875年の国会での意見表明において、Butler-Johnstoneが以下のように述べている点を重視しなければならない。

「まさしく、私が擁護するのは、ロンドンのWimple Streetの著名なRothの熱烈な取り組みである。彼はこの問題 (筆者注 体育授業の導入の問題) に多くの関心に向けており、かなりの成果をあげている。彼は徐々に、彼のもとに送られてきた多くの女性教師に、リングの徒手で行う教育的な体操を教えたり、講演をしたりしている。」<sup>81)</sup>

Rothの活動が、このように言及されている点からみても、Butler-Johnstoneによる意見表明は、

Rothらの専門家の主張を集約する時候を得た提言であったとみることができよう。

われわれは、Rothの提案を背後に行われた国会での意見表明に対して、1875年の時点での体育授業導入に関する政府当局の見解を次に考察することが重要となる。

### 5. 現状打開の具体策に欠ける政府当局の見解

1875年のButler-Johnstoneによる「体育(physical education)」と題する意見表明は、体育授業導入を政府当局に促す新しい提言であった。この意見表明に対して、当時の教育大臣とも言うべき枢密院教育委員会副委員長 Sandonは、この問題について考慮する旨約束した。<sup>82)</sup>

しかし、折りにふれて出された政府当局による具体策は、これまで初等学校で行われていた軍事教練を踏襲し、教育規則に従来から明記されていたことを実施することにとどまっていた。<sup>83)</sup> このような1875年の事実は、これまで通史の叙述の中では言及されていないが、体育授業導入に関する当時の政府当局の見解を知るには格好の事柄である。この時点で政府当局は体育授業導入に関して、どのような見解をもっていたのであろうか。時、同じくして政府当局の要人が語った軍事教練に関する発言をみると、政府当局が考えていた内容は、軍事教練にほかならなかったことが判明する。

「学校の軍事教練の効果は、男児に秩序、時間厳守、清潔さを促していくことにある。そして、軍事教練は、最も望ましい形式の体操である。この軍事教練は、健康に良い結果を導くことだけでなく、規律や従順な習慣を生み出すものである。」<sup>84)</sup>

このように、政府当局の考えていた体操は軍事教練そのものであり、「健康に良い結果を導くという」価値が付与されているということをほめかしている。しかし、これらは、机上の空論を述べているだけであって、実際に、軍事教練が健康に良い結果を導くという論拠を示していないという盲点があったといわねばならない。

1875年に、政府当局によって示された見解は、体育授業の導入を熱望していた専門家Rothにとって、いかに落胆しかかは想像に難くない。このときの政府当局の見解について、Rothは、『国会や政府当局による体育と衛生の怠慢』<sup>85)</sup>と題する著書の中で、このときの落胆の心境を如実に訴えているほどである。

彼は、1870年前後から公表してきた体育に関する

論文の概要を語る。<sup>86)</sup>そして、1875年の事実について、Butler-Johnstoneの意見表明に対する政府当局のとった態度を以下のように批判している。

「陸軍当局は、軍事教練が身体の調和的発達には不十分であるということを確認していたので、過去15年間、イギリス軍には科学的な部類のものではなかったが、組織的な課程にもとづく体操を導入していた。もし、このことを政府当局が理解していたなら、教育の責任者である枢密院教育委員会副委員長が、科学的な体育や衛生に対してはなほだ無知であることを公然と訴えることはまがいがいなくあり得なかつたであろう。」<sup>87)</sup>

Rothは、政府当局のとった態度に対して、いかにも落胆して、このように述べているのである。なお、「すべての階級、特に、労働者階級や貧民階級のために、私や他の人々が主張している問題の重要性を政府当局が確信しない限り、改善されるという希望は全くない」<sup>88)</sup>と言い切っているほどである。

こうしたRothの指摘は、当時にして政府当局が体育授業導入の姿勢を示していないことを訴えていたといえるのである。このことは、1890年代の前半に至まで、政府当局がいっこうに体育授業導入の姿勢を示していないというその後の動向からして、当然の指摘であったといえるのである。

### 6. まとめにかえて

ヴィクトリア時代の繁栄が大きく崩れ始めた大不況期において、対外的な植民地獲得は、国内の社会問題の解決と同時に画策されていた。国内の社会問題の解決がしきりに説かれ、対外的な植民地獲得の画策を正当化せしめたのである。

このような時代、つまり、1870年代の後半にさしかかろうとしていた時代の初等教育は、1870年初等教育法の制定後、初等学校においては、漸次、就学率も上昇し、実質的な義務教育へと地歩を固めつつあった。

Mathias Rothの体育導入提案は、(1)初等教育の現状と体育の必要性、(2)国民の身体の現状、(3)教育思想家の教育論にみる体育の重要性、(4)ゲーム活動の過小評価と科学的な体育の内容、(5)体操の利点というように、大きく5つの部分に分けられていた。Rothの体育授業導入提案のねらいは、一言で衛生的な知識の要素を含んだ合理的な体育(Rational Physical Education)に関する重要な問題に人々の関心を

促すことであった。当時の工業化の進んだ都市においては、自国の産業の振興こそ、イギリスが他の諸国と植民地獲得を競争し合う経済的基礎であった。産業に従事する人々の体格や健康の零落という現状も体育授業導入の背景であったのである。雇用主の立場からも初等学校へ通う児童の健康や体格の零落の現状が訴えられていた。1875年の下院では、初等教育の進捗状況と共に、当時の都市環境下の生活から導かれる人々の健康や体格の問題から初等学校への体育授業導入が論議された。下院での趣旨説明にRothの先の提案での説明資料が援用されていたことは明らかであった。

しかしながら、Rothの提案や主張を真っ先に受け止めて、その検討を開始し、いち早くその実施に緒をつけたのは、ロンドン学務委員会管轄下の学校においてであり、1870年代後半から1880年代前半の時代まで待たなければならなかったのである。

#### 註及び引用文献

- 1) 村岡 他『イギリス近代史』ミネルバ書房 1986年 PP.198-199.
- 2) 同上書 P.198.
- 3) 同上書 P.198.
- 4) 同上書 PP.189-191.
- 5) 同上書 P.200.
- 6) 同上書 P.189.
- 7) 同上書 P.189.
- 8) 青山 他『概説イギリス史』有斐閣新書 1982年 PP.174-175.
- 9) 同上書 P.175.
- 10) 同上書 P.175.
- 11) 前掲書 村岡 他『イギリス近代史』 P.193.
- 12) 同上書 P.209.
- 13) 同上書 P.210.
- 14) 同上書 P.199.
- 15) 同上書 P.199.
- 16) 梅根 悟監修 世界教育史研究会編『イギリス教育史(Ⅱ)』講談社 PP.18-19.
- 17) 同上書 PP.24-25.
- 18) Mathias Roth, M.D.; *A Plea for the Compulsory Teaching of the Elements of Physical Education in Our National Elementary Schools, or the Claims of Physical Education to rank with Reading, Writing, and Arithmetic*. London, 1870. P.i. 'Aim of Pamphlet'
- 19) *ibid.*, P.ii
- 20) *ibid.*, PP.7-8.
- 21) *ibid.*, P.8.
- 22) *ibid.*, PP.8-9.
- 24) *ibid.*, P.9.  
Rothの提案には、簡条書きの部分もあり、それぞれの簡条書き部分に番号が付記されている。本稿では、便宜上○数字を用いることとした。
- 25) *ibid.*, PP.10-14.
- 26) *ibid.*, P.14.
- 27) *ibid.*, P.16.
- 28) *ibid.*, P.16.
- 29) *ibid.*, P.16.
- 30) *ibid.*, PP.16-17.
- 31) *ibid.*, PP.19-20.
- 32) *ibid.*, P.20.
- 33) *ibid.*, P.20.
- 34) *ibid.*, P.20.
- 35) *ibid.*, PP.20-22.
- 36) *ibid.*, PP.23-24.
- 37) *ibid.*, PP.24-25.
- 38) *ibid.*, PP.25-27.
- 39) *ibid.*, PP.27-29.
- 40) "Physical Education - Observation -" in; Gt.Brit. *Parliament, Hansard Parliamentary Debates*, 3rd Ser., Vol.222., July 1st 1875. London: HMSO, Col.794-799.
- 41) *ibid.*, Col. 794, July 1st 1875.
- 42) *ibid.*, Col. 794, July 1st 1875.
- 43) *ibid.*, Col. 794, July 1st 1875.
- 44) *ibid.*, Col. 794, July 1st 1875.
- 45) *ibid.*, Col. 794, July 1st 1875.
- 46) *ibid.*, Col. 794-795., July 1st 1875.
- 47) 森川 泉 「イギリス学校教育制度の展開と構造 1870-1902」『広島修道大学研究叢書』第25号 PP.26-27.
- 48) 同上書 P.27.
- 49) *op.cit.*, "Physical Education - Observation -" in; Gt.Brit. *Parliament, Hansard Parliamentary Debates*, 3rd Ser., Vol.222., Col.794-799. July 1st 1875.
- 50) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 51) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 52) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 53) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 54) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 55) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.

- 56) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 57) *ibid.*, Col. 796, July 1st 1875.
- 58) *ibid.*, Col. 796, July 1st 1875.
- 59) *ibid.*, Col. 794-796, July 1st 1875.
- 60) Roth, M., A.; "On the School Hygiene and Scientific Physical Education", in; *The British Association for the Advancement of Science, Report of the British Association for the Advancement of Science*, London, 1876. PP.470-473.
- 61) *op.cit.*, "Physical Education - Observation -" in; Gt.Brit. Parliament, *Hansard Parliamentary Debates*, 3rd Ser., Vol.222., Col.794-799. July 1st 1875.
- 62) *op.cit.*, "On the School Hygiene and Scientific Physical Education", 1876. PP.471-473.
- 63) *ibid.*, 1876., P.471.
- 64) Roth, M.; *Gymnastic Exercises without Apparatus according to Ling System for the due development and strengthening of the Human Body*, 5 ed. London, 1876. "Introduction to the Fifth edition", PP.5-6.
- 65) *ibid.*, 1876., P.5.
- 66) *ibid.*, 1876., P.5.
- 67) *ibid.*, 1876., P.5.
- 68) *op.cit.*, Roth, M., A.; "On the School Hygiene and Scientific Physical Education", in; *The British Association for the Advancement of Science, Report of the British Association for the Advancement of Science*, 1876. PP.470-473.
- On the Scientific Physical Education and its Practical Introduction into Schools, London, 1880.
- 69) *op.cit.*, Roth, M.; *Gymnastic Exercises without Apparatus according to Ling System for the due development and strengthening of the Human Body*, 5 ed. 1876. "Introduction to the Fifth edition", P.6.
- 70) *ibid.*, 1876., P.6.
- 71) *ibid.*, 1876., P.5.
- 72) *op.cit.*, "Physical Education - Observation -" in; Gt.Brit. Parliament, *Hansard Parliamentary Debates*, 3rd Ser., Vol.222., Col.794-799. July 1st 1875.
- 73) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 74) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 75) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 76) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 77) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 78) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 79) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 80) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 81) *ibid.*, Col. 795, July 1st 1875.
- 82) Roth, M., *On the Neglect of Physical Education and Hygiene by the Parliament and Education Department , as Principal and Department, as the Cause of Degeneration of Physique of the Population of the Excessive Infantile and General Mortality and many Disease and Deformities*, London, 1879, PP.12-13.
- 83) Gt.Brit. Education Department, "Code of Minutes", 1875.
- 84) "Military Training" in; Gt.Brit., Parliament, *Hansard Parliamentary Debates*, 3rd Ser., Vol.222., Col.1202. April 19th
- 85) *op.cit.*, Roth, M., *On the Neglect of Physical Education and Hygiene by the Parliament and Education Department , as Principal and Department, as the Cause of Degeneration of Physique of the Population of the Excessive Infantile and General Mortality and many Disease and Deformities*, London, 1879, PP.12-13.
- 86) *ibid.*, 1879., PP.1-6.
- 87) *ibid.*, 1879., P.7.
- 88) *ibid.*, 1879., P.10.